

保健室に来室する生徒への援助における校内での効果的な連携の方法に関する研究

—養護教諭の取り組みに関する実態調査から—

広島市立国泰寺中学校養護教諭 千葉優美

問題の所在

近年、不安や悩みなどを抱えて身体不調を訴える生徒や、授業から離脱する生徒たちが多く保健室を訪れている。このような生徒への適切な援助に向けては、養護教諭と他の教師との連携が重要になってくる。しかし、現状では生徒理解を図るための教師との情報交換を行う時間がとりにくいことや、援助方針の共通認識が図られにくいことなどから、円滑に援助を行うことが難しいなどの課題がある。

そこで、本研究では養護教諭と教師との効果的な連携の方法について探ることとした。

研究の方法

校内での連携における取り組みや課題等について養護教諭を対象に調査し、分析・考察することで効果的な連携の方法について探る。

研究の内容

1 研究主題に関する基礎研究

(1) 養護教諭の行う健康相談活動と連携

養護教諭の行う健康相談活動とは、職務の特質や保健室の機能を生かし、生徒の様々な訴えの背景や要因を考えながら、解決のための援助など心や身体の両面への対応を行うものである。生徒が抱えている問題や悩みの全体を理解し、解決するためには養護教諭のみでかかわるには限界があるため、他の教師と連携を図って援助していくことが重要である。

(2) 連携とは

問題行動を示す生徒が、自己治癒力を発揮して、課題改善が図られやすいような環境をつくっていく

ために、援助にかかわる人々が問題把握から解決まで、互いに協力し連絡をとり合うことである。

(3) 連携の目的と留意事項

連携の目的には、情報交換を通して生徒理解を深めるといことと、教職員が協力しあう中で生徒に適切に援助を行うという二つのことがある。そして、連携においては、保健室の機能について教師へ共通理解を得るような働きかけや日頃から教師と良好な人間関係をつくるのが大切である。

2 校内での連携における具体的な取り組みに関する実態調査

(1) 調査の目的

校内での連携において改善・解決した取り組みやその事例及び課題、また連携において留意していることなどを調査することで、効果的な連携の方法を探るための基礎的資料を得る。

(2) 設問構成

図1は、設問構成を示したものである。

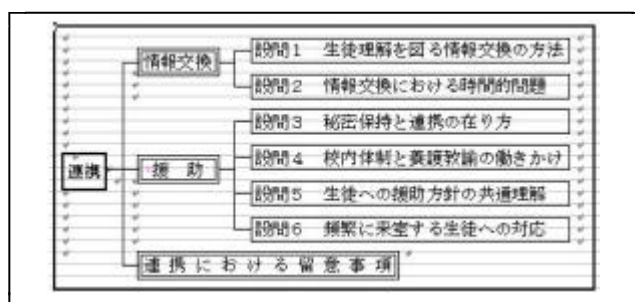


図1 設問構成

(3) 調査対象及び回答者数

広島市立中学校の養護教諭 (回答者数40名)

(4) 調査時期

平成13年12月

(5) 調査方法

自由記述による質問紙法

3 調査結果の分析・考察

ここでは、各設問ごとの記述内容について取り組み内容を分類・集計し、さらに取り組みごとにその

効果や課題について分類・集計し考察する。

留意事項についてもその内容及びそれぞれの好ましい変化について分類・集計し考察する。

(1) 情報交換について

設問1 生徒理解を図るために、他の教師との情報交換はどのように行っていますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
教師の空き時間などに職員室へ出向き話をする	21	情報交換をすることでいろいろなことが分かり、教師と役割分担など援助について確認ができた。	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ お互い時間的余裕がなく情報交換が十分できない。 ・ 常に生徒が保健室にいる状況なので、情報交換に行く時間がとれない。
		教師から日頃の生徒の様子などを聞き、問題行動などの原因をつかむことができた。	3	
		〔その他〕教師と生徒との関係がよくなった。 など	3	
廊下ですれ違う時などその都度機会を見つけて話をする	6	教師と情報交換をし、共通理解のもと役割分担を決めて効果的な援助が行えた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換をする時間をとりにくい。 ・ 生徒の見方が教師と一致していない場合、どのように情報提供すればよいか悩む。
		情報交換をすることで、生徒の行動などの原因をつかむことができ、生徒理解に役立った。	2	
		担任が来室して生徒と話をし、生徒は気持ちが安定した。	1	
学年会の場で生徒の様子について話をする	3	教師の考えや多くの情報が得られ生徒の来室時の参考になり、援助方針の共通理解ができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換ができる場だが効果的に活用できていない。
生徒に関する情報は先に担任を通して行う	3	授業についていけない生徒と担任と養護教諭で話し合っ対策を決め、その後教室へ行くようになった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の問題として提起しにくい。
		担任と援助方針について確認できた。	1	
健康観察簿から気になる生徒の様子を聞く	2	健康観察時の様子を事前に担任から聞いていると、生徒への対応の仕方をスムーズに判断できる。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察簿の記入忘れがあると、正確さに欠ける。
〔その他の取り組み〕	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動終了時間まで保健室に居り教師の来室を待つ ・ 教師に来室してもらう ・ 生徒指導推進委員会の場を活用する ・ 生徒と人間関係のできている教師と情報交換をする ・ 設定された時間の中で関係者と情報交換をする 		

【考察】

職員室へ出向いて情報交換を行う取り組みが多い。職員室へ出向いたり、その都度機会を見つけて養護教諭から情報を伝える中で、教師からも情報を得ることができ、生徒の抱えている問題が明らかになる中で、共通認識が図られ生徒への援助が行われやすくなっている。また、学年会の場で話をする中で、教師から多くの情報を得られ共通認識も図られている。ただ、情報交換を行う時間を十分に確保できないという状況が見られる。

取り組みの人数と効果の記述数が合わないのは、記述がない場合があるためである。

設問2 担任との情報交換の時間を確保しにくい場合がありますが、短時間で情報交換を行うためにどのようにしていますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
教師の空き時間や放課後などその都度チャンスをとらえて話をする	11	生徒の様子を注意して観察してもらい、後でどうだったか聞いて生徒への対応を決めることができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が空き時間に職員室へ戻らない場合もあり、情報を伝えるのが遅くなる。 ・ 時間を十分確保できず話が途中で終わってしまう。
		早めに情報交換ができ、早期に余裕を持って対応できた。	2	
		〔その他〕教師と援助方針について確認できた。 など	4	
気になる生徒の様子や相談したいことをメモして担任の机の上に置いておく(プライバシーに配慮して)	10	教師が保健室のことを気にかけて来室し、生徒と話をしたり教室へ一緒に行くなど連携がとれた。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ メモでの連絡だけでは不十分なことが多い。 ・ 教師にメモを見る時間がなかったり、反応が返ってこないことがある。
		渡したメモの内容で、担任はその生徒や保護者にすぐ対応し、問題の早期解決に至った。	2	
伝えたい情報を記録しておき後で話をする	5	メモ書きをしておくため漏れがなく、重複して話をしなくてよかった。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録の整理をする時間確保が難しい。
保健室連絡票で生徒の利用の様子を伝える	3	生徒が早退を希望している事を連絡票で伝え、教師は生徒の悩みを聞き、翌日生徒は元気に登校してきた。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細かいことを伝える場合、用紙では限界がある。
		〔その他〕教師から保護者への状況報告に役立つと言われた。 など	2	
学年会の場で生徒の様子について話をする	3	学年会で事前に情報を得やすく、話題にのった生徒が体調不良で来室した時に適切な対応ができた。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属学年以外の情報は得にくい。
		生徒の様子を見てもらい情報を得た。	1	
〔その他の取り組み〕	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内電話の利用 ・ 連絡ノートを使う ・ 担任の授業が終わるのを教室の前で待つ ・ 年度初めに情報交換を十分しておく ・ 問題発生時、情報や方針の整理と関係者の調整を迅速に行う 		

【考察】

空き時間など適宜話をすることや記録を利用することで、効率的に情報交換を行うようにしている状況がうかがわれる。メモの活用では、要点だけでも日頃から簡単に伝えておくことが教師の来室につながり、生徒への対応も迅速に行われている。ただ、教師との認識にずれがある場合などは、メモ等の記録の方法だけではうまく伝わらないこともあるので、記録だけに頼らず日頃から情報交換をしやすい状況をつくっておく必要があると考えられる。

(2) 援助について

設問3 生徒が養護教諭に話したことを他の教師には言うて欲しくないと言った時に、どのように対応していますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
話の内容によっては生徒に気付かれないように教師に話す	20	それとなく生徒に声かけをしてもらったことで生徒は心を開いて話し、問題が解決した。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秘密を守って欲しいことを十分お願いしていても、守ってもらえず生徒との信頼関係を失ってしまうことがある。 ・ 教師によっては話しにくい場合がある。
		他からの情報ということで教師に生徒へ対応してもらい、解決に向けて援助が行われた。	2	
		保護者への連絡やクラスでの取り組みなど、養護教諭のできないことへの協力を教師にしてもらうことができた。	2	
		学年と連携をとりながら解決できた。	2	
		〔その他〕生徒との信頼関係が築けた。 など	2	
養護教諭から教師に話をすることを生徒に納得させて教師に話す	13	問題を抱えている生徒について担任と情報交換をし、担任は家庭と連携をとるなどして解決に至った。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒との人間関係を崩さずに対応していくことが課題である。 ・ 生徒の説得が難しい。どうしても説得できなかった場合、養護教諭が相談できる校内での連携が必要になってくる。
		生徒と人間関係のできている教師に相談をして、問題が解決した。	3	
		いじめや家庭での問題を、学校組織や複数の教師で対処して問題を解決していった。	2	
秘密保持を大切にするため教師に話さない	3	生徒に異性交遊についてうち明けられ、相手と一緒に親に伝えるよう勧めた。その後、親同士の話し合いになった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のベースにのせられないよう主導権は養護教諭が持つておく必要がある。 ・ 担任が信頼できるかで伝えることを判断してしまう。
		いじめを受けた繊細な生徒の辛い気持ちに共感して様子を見守っていた。今は順調に学校生活を送っている。	1	
同僚や管理職に相談をして対応する	2	アドバイスを受けて生徒にかかわっていく中で、生徒は教師に相談してみようとする気持ちが生じ、うまくいった。	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしても親に話さないと解決が難しいものもある。
本人から教師に話すように促す	2	生徒が教師に今までの不満を話し、聞いてもらう中で安定し、教室で楽しく過ごすようになった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケースによっては、難しいこともある。

【考察】

何らかの形で生徒の状況について教師に伝え、連携をとりながら問題を解決しようとする取り組みが多い。生徒がうち明けた話を、養護教諭が生徒に気付かれないように教師に話したとしても、それを生徒が知ってしまい信頼関係を失うことがあるので、教師と十分確認して行う必要がある。しかし、養護教諭から教師に話すことを、生徒が納得できたら問題解決が図られやすくなっている。この設問は、秘密保持との関係で非常に微妙な問題があり、対応についてはケースバイケースで行われている状況である。

設問4 生徒への援助を行う際、養護教諭が所属している部や委員会などで開かれる会議の中で、養護教諭としてどのような役割を果たしていますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
保健室を利用している生徒の状況を話す	9	保健室での問題行動の防止に努めてもらえるので、保健室を利用する生徒個々への適切な対応ができるようになった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会以外の教師にも生徒の様子を把握してもらいたい。 ・ 生徒と人間関係ができていない教師が対応するとうまくいかないことがある。
		来室する生徒への教師の理解が得られた。全員で生徒を把握しようとする意識が高まった。	3	
気になる生徒について話をする	8	教師から生徒の情報を得て、新たな一面や配慮することなどが分かり、生徒の対応に役立った。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任が報告しないことをどこまで話してよいか悩むことがある。
		教師が来室して生徒への対応につながった。	1	
統計資料を提示し生徒の状況を話す	4	生徒の状況を把握し協力する体制ができ、ふれあいひろばや保健室登校生徒への指導にも協力的になった。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の説明が不十分だと活用がうまくされない。
指導や取り組みのアドバイスをする	4	教師に不登校傾向の生徒へのかかわり方をアドバイスしたところ、生徒が教室に入れるようになった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事や来室者が多い時などは負担が大きいことがある。
		コーディネーター的役割を果たせた。	1	
生徒の立場で生徒の気持ちを伝える	2	生徒の本音の部分伝えることで、教師の援助の仕方が変わった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師から甘やかしと言われることがある。
協力して欲しいことについて話をする	2	グループでの生徒の来室が減り、1対1で生徒と話ができ人間関係が作りやすくなった。	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し方によっては誤解を受けることがある。

〔その他の取り組み〕 3 ・ 養護教諭の援助方針を伝える ・ 養護教諭という立場だけでなく他の教師と同じ立場で考える

【考察】

会議の中で、保健室を利用する生徒の状況を話したり、統計資料などを使って説明したりすることで教師が理解を示し、協力体制ができやすくなっている。課題としては、会の参加者には生徒の状況は分かるが、それ以外の教師への理解が広がりにくいことがある。

設問5 生徒への援助方針が他の教師と違っていた場合、援助方針の統一を図るためにどのようにしていますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
お互いよく理解し合えるように教師の意見を聞き自分の考えを話す	13	教師と援助方針の統一を図って不登校生徒に対応したことで、生徒は教室で授業を受けることができた。	2	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から意見を言い合える人間関係ができていない場合、理解を得にくい。 話し合う時間の確保が難しい。
		お互いの援助方針の共通部分を実践し評価するなど、援助に向けての話し合いを進めることができた。	1	
		生徒の気持ちの代弁をする中で、教師との援助方針の統一が図れた。	1	
会議などの場で自分の思いを話す	10	学年会など会議の中で、役割分担など援助方針が明確になったので、保健室での援助方針もはっきりした。	7	<ul style="list-style-type: none"> 会の中でのリーダーの運営のし方が大きな鍵となる。
他の話しやすい教師などに相談し、対応についてお願いする	7	教師に間に入って話をしてもらったことで、他の教師の理解を得られた。	2	<ul style="list-style-type: none"> 担任の立場を悪くすることのないような配慮が必要である。
		研修会で担任の対応が適切なことをスクールカウンセラーに話してもらい、教師との共通理解が図れた。	1	
担任の援助方針を尊重しながら支援する	5	担任より一歩引いた方がうまくいくという考えで行動しているため、あまりトラブルがない。	1	<ul style="list-style-type: none"> 内容により専門職としての立場を示す必要もある。
		共通理解のもと生徒に同じ対応ができた。	1	

〔その他の取り組み〕 1 ・他の専門機関に相談する

【考察】

お互いよく理解し合えるように教師の意見を聞き自分の考えを話すなど、援助方針の統一を図ろうとする取り組みが多い。話をすることで共通認識が図られると問題が解決されやすくなっている。特に、会議などでは援助方針について話し合うことで、役割分担が明確になるなどの効果が見られる。援助方針の共通理解を図るためには、日頃から意見を言い合える人間関係づくりが大切であると思われる。

設問6 怠学傾向などで頻繁に生徒が保健室に来室するような状況が生じた場合、他の教師とどのようにしていますか？

取 り 組 み	人 数	効 果	記 数	課 題
教師に保健室に来てもらい生徒にかかわってもらう	13	教師がこまめに保健室をのぞいたり生徒に話しかけることで、生徒がスムーズに教室に戻るようになった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 教師の生徒への対応の仕方によっては、生徒との信頼関係が崩れることがある。 生徒と教師が言い合って生徒が落ち着かなくなる。
		教師が生徒と保健室で話ができるようになり、生徒は安定した。	2	
		複数の教師が生徒に対応してトラブルが避けられ、生徒は落ち着きを取り戻した。	2	
		〔その他〕来室する生徒個々への対応ができる。 など	2	
保健室の利用の仕方について枠を決めて、生徒にかかわるよう共通認識を図っている	12	生徒は納得しているので利用時間を越えることはない。保健室連絡票など利用の仕方が定着しつつある。	7	<ul style="list-style-type: none"> 怠学傾向が見られる生徒への許可の出し方を検討する必要がある。 根本的に学習に対する興味をもてないという状況があるため枠通りにいかない。
		生徒の来室が減り1対1でじっくり話ができ、人間関係をつくりやすくなった。他の生徒も利用できるようになった。	2	
状況を報告し援助方針について話し合うようにしている	9	見回りなど教師が保健室へ来て生徒に対応することになり、生徒の保健室の出入りが落ち着いた。	4	<ul style="list-style-type: none"> 教師に対応してもらうことで教師は一段といそがしくなった。 意識統一には時間がかかる。日頃から共通理解を得る働きかけが必要である。
		教師は生徒と何度か話して生徒の気持ちをよく理解した。生徒は不満が減り来室しなくなった。	2	
生徒の来室記録を提示し教師の理解を得る	4	担任に懇談会で生徒の来室状況を保護者に見せて説明してもらったことで改善された。	2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒から「チクった」と言われることがある。
		担任と連絡をとりながら生徒を援助した。	1	

〔その他の取り組み〕 2 ・校内組織づくりの段階から保健室経営上の連携がとりやすくなるよう意見を出す ・ケースバイケース

【考察】

頻繁に来室する生徒に対しては、教師に来室してもらい生徒にかかわってもらう取り組みが多い。教師が来室して生徒の話を聞くことで、生徒は気持ちが安定したり、不満が減って来室しなくなるなどの効果が見られる。このことが、ひいては保健室に任せきりにならないということにつながっている。また、保健室の利用の仕方の枠を決めることで、保健室の利用についてのきまりを生徒に認識させることができ、養護教諭にとっては多数の生徒へ対応できるようになっている。ただ、一定の枠を決めることは効果があると思われるが、生徒の状況によっては柔軟に対応する必要もあると考えられる。

(3) 連携における留意事項について

設問 校内での連携を図るために留意していることと、また、それに留意することで連携において好ましい変化があれば書いてください。

留意していること	人数	好ましい変化	記録
日頃からコミュニケーションを図るようになり、教師との人間関係づくりに心がけている	27	教師と話しやすい関係になり、お互い遠慮せず情報交換ができるようになった。 〔その他〕困った時や保健行事がある時など協力体制ができ人間関係が深まった。 など	18 5
生徒のことや保健室の状況などを話すようにしている	25	教師と話しやすい関係になり、教師から情報提供してもらえ生徒について知らなかったことが分かった。 〔その他〕保健室での対応について理解を得て、役割分担ができるようになった。 など	11 7
保健室にかかわる仕事以外のことも協力をする	7	保健室のことも快く手伝ってもらえ、保健行事の実施などもスムーズになった。 教師の来室が増えて話しやすくなった。	5 1
保健室経営の方針が教師に分かるようにしておく	3	保健室の立場や在り方について教師から理解される。 教師の協力を得やすい。	2 1
〔その他の留意していること〕 6 ・会議の議題にのるよう意見を出し、相談体制づくりを心がけている ・教師が来室しやすい雰囲気をつくる ・保健室の役割を一生懸命努める			

【考察】

日頃からコミュニケーションを大切にしながら教師との人間関係をつくるようにすることや、生徒について話をするようにしている様子が多く見られる。そのことで、お互い遠慮せず情報交換ができるようになり、教師からも情報が提供され、保健室に関することも教師が快く手伝えるなど、教師との好ましい関係が生じている。

4 効果的な連携を図る養護教諭の教師へのかかわり方
図2は、今回の調査結果の分析・考察を基にして、生徒への適切な援助に向けた養護教諭と教師との効

果的な連携の方法について、試案として作成したものである。

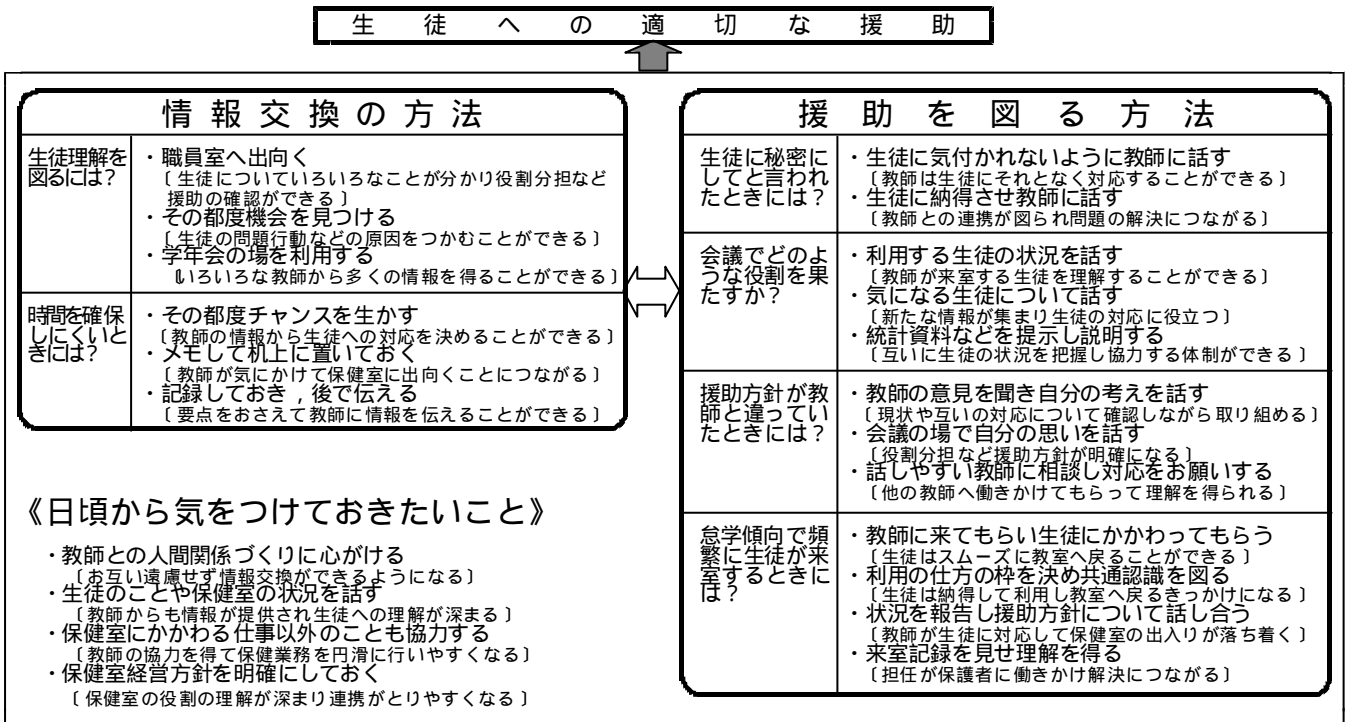


図2 効果的な連携を図る養護教諭の教師へのかかわり方（試案）

研究のまとめ

本研究では、保健室に来室する生徒への援助における校内での効果的な連携の方法を探った。その結果、効果的な連携を図る養護教諭の教師へのかかわり方の試案を作成することができた。この試案は、あくまで養護教諭の実態調査から作成したものであるため、実際の連携においては他の教師との関係性も重視しなければならない。この試案を基に今後、

実践しながら振り返り、修正を加えていき、よりよい連携の在り方について深めていきたい。

参考文献

出井美智子 『子どもの心がわかる養護教諭に』 学事出版 1996
 養護教諭の相談を学ぶ会 『養護教諭の相対的対応』 学事出版 1993

